

3 基本構想策定以降の成果・実績

①ユニバーサルデザインの考え方に沿ったまちづくり

●バスターミナル整備による公共交通機関の利用環境の向上



【概要】

奈良公園周辺の交通渋滞の緩和や、安心して訪れていただける周遊環境の向上を目的として、奈良公園バスターミナルが整備されました。

●駅前広場の整備による総合的なバリアフリー化



【概要】

各種公共交通機関への案内の充実や、屋根の設置による雨天時の移動など、だれもが安全で円滑に利用することができるJR奈良駅東口駅前広場が整備されました。

●歩道車道間の段差解消



●多目的トイレの整備



②奈良の魅力を高めるバリアフリーの推進

●バリアフリーマップの作成



【概要】

だれもが安心して出かけられるように、バリアフリーに関する情報を掲載したマップが作成されました。

・『奈良おでかけ安心サポートマップ』

出典：奈良県

・『奈良市車いすガイド』

出典：奈良市観光協会

●歴史的建造物におけるスロープ整備



【概要】

寺院・神社は歴史的建造物であることから、東大寺では原状復旧が行えるよう、取り外し可能なスロープの設置等が行われ、歴史的価値とバリアフリーの両立が図られています。

出典：国土交通省 移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン

③みんなで取り組むバリアフリー社会の実現

●総合窓口設置による職員の案内誘導と視覚障害者誘導用ブロックの整備



【概要】

奈良合同庁舎では、総合窓口での案内誘導と窓口までのルートに視覚障害者誘導用ブロックを設置することで、だれもが利用しやすい環境整備が図られています。

●カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントの普及啓発、導入検討

カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

1. できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ
2. 色を見分けにくい人にも情報が伝わるようにする
3. 色のなまえを用いたコミュニケーションをする

ポイント1 色を変えたり、明暗の差をつける			
改善前	一般色覚者	色弱者(P型)	改善後

ポイント2 文字や線を太くしたり、形を変える			
改善前	一般色覚者	色弱者(P型)	改善後

ポイント3 色の名前を入れる			
改善前	一般色覚者	色弱者(P型)	改善後

奈良市 福祉政策課

【概要】
 色覚や視覚は人それぞれ異なります。本市では、可能な限りすべての人に正確に情報を伝えるため利用者の視点に立ち、色づかいについて配慮をする「カラーユニバーサルデザイン」の啓発チラシを作成し、周知・啓発を行っています。また、チラシには多くの人がその文字を正しく認識できることを条件として制作された「ユニバーサルデザインフォント」を使用しています。

④思いやりの精神をはぐくむこころのバリアフリーの推進

●バリアフリー教室の開催



【概要】
 本市では、市民や職員などを対象としたバリアフリー教室を開催しています。バリアフリー化の重要性や高齢者や障害のある人に対する基礎的な知識を学ぶとともに、車いす利用体験や視覚障害者疑似体験等を行うことで理解の推進を図っています。

●合理的配慮の啓発

<p>飲食店で 視覚障害の人に、メニューやその内容を読んで説明しましょう。</p>	
<p>受付・窓口で 聴覚障害の人に、筆談や手話などでコミュニケーションをとりましょう。</p>	<p>災害・緊急時に 視覚障害の人に、相手の自となって非障害者などに誘導しましょう。</p>
<p>役所や会社で 障害のある人から申し出やたずねられたときなどは、ゆっくりと分かりやすいことばで説明しましょう。内容が分かったことを確認しながら話しを進めましょう。</p>	

【概要】
 障害の特性や程度、状態、性別、年齢など、ひとりひとりの特徴や場面に応じて発生する障害・困難さを取り除くため、状況に応じた配慮が必要です。本市では職員を対象とした「合理的配慮」に関する周知・啓発を実施し、行政サービスの向上に努めています。
 ※合理的配慮とは…ひとりひとりの障害者に対して社会的障壁を取り除くために、必要な配慮を負担が過重でない範囲で行うこと。